日本共産党市会議員　　２０２６年　２月２２日

庄本けんじ

携帯　090-6665-9401　議員控え室　0798-35-3368

活動ニュース

くらし優先の政治へ たたかいぬきます

西宮市の予算議会で庄本けんじが代表質問

２月２０日代表質問

２月２０日（金）、庄本けんじ議員は、日本共産党西宮市会議員団を代表して、西宮市政方針に対する代表質問をおこないました。

冒頭、突然の総選挙がおこなわれたことに触れ、まず、西宮市の平和行政について、質しました。あわせ、学校給食の無償化の問題、不登校問題、財政構造改善計画の問題、タワーマンション建設、そして住民合意のまちづくりの問題などを取り上げました。

「軍事優先か」「くらし優先か」、対決が激しくなる新しい情勢

突然の解散総選挙がおこなわれ、その結果、今後の政治対決が、鮮明になりました。「軍事優先か、暮らし優先か」という対決。この対決は、いよいよ激しくなります。政権を揺るがす大闘争へと発展することになるでしょう。すでに、選挙の結果を受けて、少なくない人たちが、今後の政局に危険を感じ、「戦争する国づくり」を許さない、強権政治を許さない、そういう声を上げておられます。日本共産党は、「くらし優先の政治」へ全力で奮闘します。

「非核三原則」厳守の声をさらに大きくすべきとき

いま、新しい政権のもとで、非核三原則の見直しの危険が高まっています。西宮市長は、平和首長会に加盟し、原水爆禁止西宮協議会の会長でもあります。そこで、いまこそ、非核三原則厳守の声を大きくする時ではないか、見解を質しました。答弁では「非核三原則の堅持と着実な実行を今後も継続して図られるよう強くお願いしたい」と述べたものの、「議論にはいろいろある」などと発言し、非核三原則の見直し議論を批判しませんでした。

憲法実現の政治をつくりましょう

学校給食費の保護者負担軽減

給食費の保護者負担（４月から）

- **小学校　３０５円⇒　５０円**
- **中学校　３６０円⇒２０５円**

月額にすると

- **小学校　５１８５円⇒　８５０円**
- **中学校　６１２０円⇒３４８５円**

この４月から、学校給食費にたいし、小学校に限って、政府が月額５２００円負担します。

これを受けて、西宮市は、給食の質を維持、また、向上のために、まずは、給食費を、一食当たり、小学生は３５５円、中学生は４１０円に値上げします。

月額に換算すると、小学生は月６０３５円、中学生は月６９７０円となります。そのうえで、西宮市は、国が負担する月５２００円（小学校のみ）を超える食材費を保護者負担とし、無償ではなく、１食５０円、月８５０円の負担求めます。

中学生の保護者負担は、４月から増額され、月額６９７０円担となります。ただし、４月からの一年間かぎりですが、市が国からおりてくる物価高騰対策の交付金を活用し、中学生の保護者負担を、当面、月額３４８５円とします。政治が大きく動いたものの、西宮市は無償化しない方針です。

次年度（２０２７年度）からの中学校給食の保護者負担は不明

小学校の給食費は、国の方針で大幅な負担軽減となりますが、中学校の給食については、物価高騰対策費をあてているために、単年度限りの対応となります。そのため、次年度は、保護者負担がどうなるか、不明です。西宮市による物価高騰対策費があてられなくなれば、中学校の給食費の保護者負担は、月額３４８５円から、月額６９７０円の倍に跳ね上がります。無償化の声を、さらに大きく広げましょう。

学校給食費の無償まであと一押し

学校給食は食育の生きた教材

憲法２６条＝「義務教育はこれを無償とする」

政府は、学校給食の無償化にまでは踏み込むことをさけましたが、それでも、今回のように無償化へ大接近したのは、国民の世論と運動の成果です。この成果を中学校まで広げましょう。そして、給食費の完全無償化を早く実現させましょう。給食は、教育の一環です。生きた教材です。憲法には「義務教育は、これを無償とする」と明記されています。実現まであと一押しです。